

あつまれつるがやの町

宮城県仙台第三高等学校 普通科40班

鶴ヶ谷の歴史

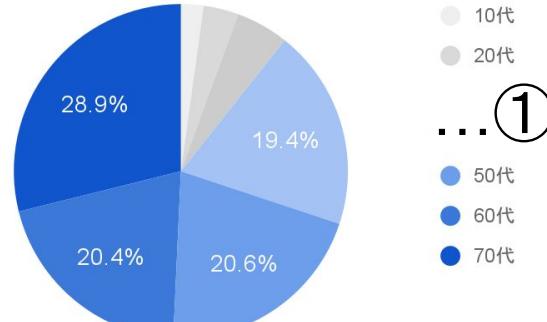
1963年…仙台三高開校
1970年代前半…鶴ヶ谷団地開発開始
1971年…鶴ヶ谷小学校開校・ショッピングセンターopen
1973年…鶴ヶ谷東小学校開校
1974年…トーコー（デパート）open
1976年…鶴ヶ谷団地入居開始

鶴ヶ谷団地は、急激な人口増加を受け入れるための場所として東北最大のモデル都市に開発された。当時は抽選で家が販売されるほど人気が高く、東北有数の団地だった。

3. アンケート結果・考察

R67月16、28日に鶴ヶ谷商店街で実施。
アンケート用紙とQRコードによる回答計91個

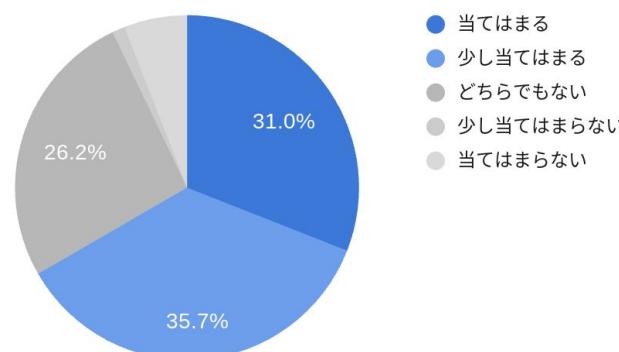
利用者の年齢



- 10代
● 20代
● 30代
● 40代
● 50代
● 60代
● 70代

①

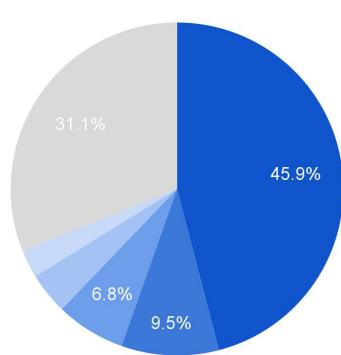
安いと感じるか



- 当てはまる
● 少し当てはまる
● どちらでもない
● 少し当てはまらない
● 当てはまらない

②

利用者の居住地



- 鶴ヶ谷
● 南光台
● 安養寺
● 燕沢
● 自由が丘
● その他

③

4. 結論

京都商店街創生センターへの訪問でもらったアドバイス

- 店舗かつ店舗間の関係をデータ化・分析
- 各商業施設が集まり話し合う場を設ける
- 商店街情報の一元化・発信強化



• 集めた情報をまとめ、マップを作成
完成したマップを町内会の班長会議で紹介し拡散を依頼
• マップ拡散後、商店街利用状況の調査

背景と目的

現代の日本において、商店街は衰退の一途を辿っている。

活動の起点である鶴ヶ谷商店街は、鶴ヶ谷が開発されたてからの昭和50年代頃から平成初期には栄えていたが、現在は、生協やツルハなどの競合や鶴ヶ谷地域内の高齢化によって、商店街の訪問者は減少している。

そこで地元の鶴ヶ谷商店街に貢献したいと考え、地域の人の商店街に対する意見を住民にアンケートで調査することにした。

3. <グラフからの読み取りとり>

①のグラフから、鶴ヶ谷商店街を利用している方の約9割が40代以上であり、30代以下からは、商店街をよく知らないという声もあった。

鶴ヶ谷団地に子供や大人が多く住む一方で、商店街の利用者は高齢化が進んでいる

②のグラフから、利用者の65%が商店街を安いと感じている。また、同アンケートで「なぜ鶴ヶ谷商店街を利用するのか」と聞いたところ、ほとんどの人が「近いから」と回答している。

利用者にとって「安さ」「近さ」が魅力になっている

③のグラフから、利用者の約半分を鶴ヶ谷の地域住民が占めており、商店街に近い地域からの来客数が多いと分かる。よって商店街は地域住民のアクセスの良い場所である。

このことから…

商店街の魅力を商店街マップ形式で載せ、それを広めることで商店街利用の効率化と来客者数の増加に繋がると仮説した。

マップ

参考文献

中小企業庁委託事業 令和3年度 商店街実態調査報告書